



Wise FAXNET 2009.6

< Y 評点の新旧比較 >

“予想通り”の結果というか“予定通り”の結果というか、企業数の上では経営状況(Y点)の点数が中央値付近に集まる傾向になっていますが、売上高が小さい層では分布幅を狭くし、売上高が大きい層では分布幅を拡大するようになりました。(中央建設業審議会ワーキンググループ第3回経営事項審査改正専門部会より)もう少し付け加えると、売上高の大きい層では全体的に点数が高くなりながら、かつ、分布幅が拡大していると考えられます。そこで、今回は、旧経審、新経審の各指標の配点を比較しながら、新経審の特徴を把握してみます。

旧経審は、最高点が1,430点で最低点は0点ですが、実際は、最高点1,430点最低点236点の中で点数が動きます。したがって、評点の幅は1,666点です。同様に、新経審では、最高点が1,595点で最低点は0点ですが、実際は、最高点1,595点最低点207点の中で点数が動き、評点の幅は1,802点となります。新経審の方が点数の幅が大きいのですが、ここでは単純に点数の幅で比較します。

まず、新経審の特徴になっている絶対額指標です。営業キャッシュ・フロー(X7)(絶対額)は、旧分類では収益性指標に該当し、また、利益剰余金(X8)(絶対額)は安定性指標になると思われます。これらの点数幅は、営業キャッシュ・フロー(X7)が343点(全体に占める割合19.0%)、利益剰余金(X8)が298点(同16.4%)とかなりの割合を占めています。これらの指標は、大きな会社が競争する場となっています。「売上高が大きい層では分布幅を拡大する」仕組みです。ここで点数を獲得できる会社は「安泰の大企業」となるのです。

営業キャッシュ・フロー(X7) → 343点(全体に占める割合19.0%)
利益剰余金(X8) → 298点(同16.4%)

次に、売上高が小さい層では分布幅を狭くしています。その対策として、旧経審の特徴であった「二極化」の緩和を目指したのです。まず、旧経審の流動性指標

が完全なくなりました。「完成工事未収金が多いとマイナス評価されるようになってきているが、公共工事債権については必ず回収されるのだから控除すべきではないか。また、このために決算期をずらすなど、企業行動を歪める要因になっている。」(中央建設業審議会ワーキンググループ第3回経営事項審査改正専門部会より)との批判がありましたが、公共工事債権のみならず全廃することになりました。点数は合計で234点です。また、健全性指標では、新経審に引き継がれた指標はひとつとなり、極端な差が出ないようにしました。上限値も大幅に圧縮しましたので、点数では296点から78点へと大きく下がりました。

流動性指標 234点 → 0点
健全性指標 296点 → 78点

新経審では、安定性指標に点数が集中しているのも特徴となっています。合計点数は1,067点になっています。特に、純支払利息比率(X1)に大きく配点されています。実に420点です。

新旧経審の評点幅の調整はしてありません。

また、総資本売上総利益率(X3)の配点も気になります。252点配点されています。

各指標の配点に新経審の意図が読み取れます。漫然と利益を上げることに邁進するよりも各指標の配点を意識した経営も考えたいものです。

WISENET編集部 松村 清(税理士)

【表1】新旧経審の指標

	旧経審	評点幅(1,666点)に対する割合 1,430点~0点(236)	上限下限	新経審	評点幅(1,802点)に対する割合 1,595点~0点(207)	上限下限	
収益性 指標	売上高営業利益率(X1)	16.1% 268点	7.4~9.5	売上高経常利益率(X4)	3.5% 63点	5.1~8.5	
	総資本経常利益率(X2)	8.5% 142点		総資本売上総利益率(X3)	14.0% 252点		
	キャッシュ・フロー対売上高比率(X3)	8.4% 140点		営業キャッシュ・フロー(X7) 絶対額	19.0% 343点		
流動性 指標	必要運転資金月商倍率(X4)	2.5% 41点	68.4~23.5	自己資本比率(X6)	11.3% 204点	68.5~68.6	
	立替工事高比率(X5)	8.9% 149点		利益剰余金(X8) 絶対額	16.4% 298点		
	受取勘定月商倍率(X6)	2.6% 44点		負債回転期間(X2)	8.1% 145点		
安定性 指標	自己資本比率(X7)	8.3% 138点	0~10.8	純支払利息比率(X1)	23.3% 420点	0.9~18.0	
	有利子負債月商倍率(X8)	16.2% 270点		0~3.1	自己資本対固定資産比率(X5)		4.4% 78点
	純支払利息比率(X9)	10.6% 178点					
健全性 指標	自己資本対固定資産比率(X10)	3.5% 58点	529.3~76.5			350.0~76.5	
	長期固定適合比率(X11)	9.0% 150点					
	付加価値対固定資産比率(X12)	5.3% 88点					

新経審は、旧経審の区分より再分類しました。

重要 Wise FAXNET メール配信移行のお知らせ

平素よりご愛読頂き誠にありがとうございます。本 FAXNET ですが、次回7月号よりメールでのご案内に完全移行させて頂くこととなりました。配信登録頂いた方々には、経審や建設業関連ニュースをいち早くお届けしております。大変お手数ではございますが、この機会に是非弊社 HP よりご登録頂くことをお奨め致します。尚、既にメールアドレスをお知らせ頂いている方につきましては、順次弊社にてご登録させて頂きます。何卒ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

送信先宛名変更(右欄に変更後の宛名をご記入ください)

今後「Wise FAXNET」送信不要

FAX 送信はこちらまで **0269-65-4745**

資料・デモをご希望の方は、下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名とご担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名

ご担当者様

ご役職・部署名

TEL

FAX

今後メールでの送信をご希望される場合は下記にアドレスをご記入下さい。

e-mail

「Wise FAXNET」は建設業業務支援ソフト「Wisdom(ウィズダム)」ユーザー様、ワイズ公共データシステム(株)に経営状況分析申請を頂いたお客様、又は資料のご請求を頂きましたお客様及び研修会で名刺交換をさせていただきました皆様等に経審に関する最新情報、経審書類作成のワンポイントを紹介、月一回の発行となります。内容に関するお問い合わせ、バックナンバーの請求(99年2月号~)は弊社までご連絡下さい。弊社ホームページよりバックナンバーのダウンロードができます(6月号は7月1日より可能)。ログインIDは「1921」です。入力後、[ログイン]ボタンをクリックして下さい。ワイズホームページ <http://www.wise.co.jp/>